

資料配付の場所

- ・国土交通記者会
- ・国土交通省建設専門紙記者会
- ・国土交通省交通運輸記者会
- ・つくば研究学園都市記者会

平成 20 年 3 月 31 日同時配布

平成 20 年 3 月 31 日

記者発表

道路局

国土技術政策総合研究所

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」 の中間評価結果（平成 18、19 年度採択）について

国土交通省道路局では、「学」の知恵、「産」の技術を幅広い範囲で融合することにより、道路政策の質を一層向上させるため、新道路技術会議（H16. 10. 13 設置）を設置しています。

平成 18、19 年度に採択された技術研究開発の中間評価について、平成 20 年 3 月 27 日に開催されました「新道路技術会議」（委員長 中村英夫 武蔵工業大学学長、東京大学名誉教授）において審議を行いました。

今回、中間評価対象となった 6 研究課題のうち、「研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込み」である評価 A となった案件は 2 研究課題、「研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するために、指摘事項に留意の上、推進することが必要」である評価 B となった案件が 4 研究課題となりましたので、別紙のとおりお知らせいたします。

（詳細は、国土交通省のホームページ

<http://www.mlit.go.jp/road/tech/index.html>

に掲載しております。）

<問い合わせ先>

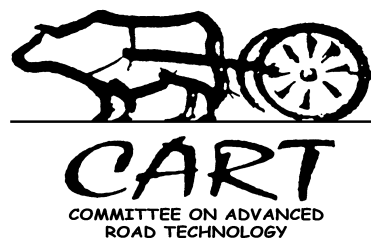
道路局 国道・防災課	企画専門官 森戸	03-5253-8111(内 37813)
		03-5253-8492(直通)
	課長補佐 原田	03-5253-8111(内 37862)
		03-5253-8492(直通)
国土技術政策総合研究所	道路研究官 佐藤	029-864-2300(直通)

※本記者発表資料については、国土交通省ホームページ（アドレス：<http://www.mlit.go.jp>）にも掲載しています。

中間評価結果（平成 18、19 年度採択）

番号	研究課題名	研究代表者	評価
18-1	道路の整備・維持管理費用、環境費用を考慮した受益者負担の仕組みに関する研究	一橋大学大学院 教授 根本 敏則	B
<p><研究の概要></p> <p>道路整備に係わる新しい受益者負担の仕組みを構築するため、諸外国の制度との比較分析、費用・負担の実態整理を行い、より柔軟な有料道路制度、対距離課金の提案を行う。</p> <p><研究継続の妥当性評価></p> <p>研究の進捗状況、研究成果の見通し、ともに概ね良好であるが、実用性の高いモデル構築に向けて、指摘事項に留意しながら、現行のとおり研究を推進することが妥当である。</p>			
番号	研究課題名	研究代表者	評価
18-2	駐車場デポジット制度による受容性と柔軟性の高い都心部自動車流入マネジメントシステム施策の研究と実証	名古屋大学大学院 教授 森川 高行	A
<p><研究の概要></p> <p>都心部の交通環境を改善するため、ITS を活用して「入域賦課金」と「駐車政策」を組み合わせ、「日本型ロードプライシング」を開発する。</p> <p><研究継続の妥当性評価></p> <p>研究の進捗状況、研究成果の見通し、ともに良好であり、現行のとおり研究を推進することが妥当である。</p>			
番号	研究課題名	研究代表者	評価
18-3	センサーネットワークを利用した次世代型斜面防災システムの構築	立命館大学防災システム 研究センター 副センター長 深川 良一	A
<p><研究の概要></p> <p>限られた資源で斜面崩壊を予知し災害を未然に防ぐため、センサー技術、情報通信技術、地盤工学を用いて、低コスト、運用の容易さ、高い信頼性、斜面状況の監視精度向上が実現可能な斜面防災機器・システムの開発を行う。</p> <p><研究継続の妥当性評価></p> <p>研究の進捗状況、研究成果の見通しを個々にみると、概ね良好ではあるものの、総合的にみると当初計画どおりの研究成果が期待できることから、現行のとおり研究を推進することが妥当である。</p>			

番号	研究課題名	研究代表者	評価
19-1	凍結融解作用を受ける斜面の崩壊予知・災害危険度評価システムの確立	北海道大学 教授 三浦 清一	B
<p><研究の概要></p> <p>積雪寒冷地を対象とした寒冷地地盤災害対策に資するため、現地ボーリング調査や実物大フィールド試験、室内模型実験、室内要素試験等により、積雪寒冷地にある破砕性帯水斜面の安定解析手法を実務レベルで確立し、災害発生ハザードマップの作成や地盤災害危険度の提案などを通して、破砕性帯水斜面の崩壊予知・災害危険度評価システムを確立する。</p> <p><研究継続の妥当性評価></p> <p>研究の見通し、研究の進捗状況、ともに概ね良好であるが、確実に研究成果を得るために、指摘事項に留意しながら、現行のとおり研究を推進することが妥当である。</p>			
番号	研究課題名	研究代表者	評価
19-2	津波による道路構造物の被害予測とその軽減策に関する研究	九州工業大学 教授 幸左 賢二	B
<p><研究の概要></p> <p>巨大地震に伴う津波による甚大な被害を防ぐために、スマトラ沖地震発生時の津波による橋梁を中心とする道路構造物の被害状況の分析を通じて、津波が道路構造物に及ぼす影響について検討するとともに、その軽減策の確立を図る。</p> <p><研究継続の妥当性評価></p> <p>研究の見通し、研究の進捗状況、ともに概ね良好であるが、実構造物への適用性の向上に向けて、指摘事項に留意しながら、現行のとおり研究を推進することが妥当である。</p>			
番号	研究課題名	研究代表者	評価
19-3	各種道路橋床版における疲労損傷の非破壊検査システムに関する研究開発	大阪大学大学院 教授 鎌田 敏郎	B
<p><研究の概要></p> <p>道路橋に主に使用されている鋼床版、RC 床版、合成床版に発生する疲労損傷において、現場での目視確認が困難なために問題となっている損傷を対象として、サーモグラフィによる赤外線撮影法（鋼床版）、衝撃弾性波法（RC 床版、合成床版）等、高精度で効率の高い床版種別ごとの非破壊検査システムを構築する。</p> <p><研究継続の妥当性評価></p> <p>研究の見通し、研究の進捗状況、ともに概ね良好であるが、非破壊検査システムの実構造物への適用性の向上に向けて、指摘事項に留意しながら、現行のとおり研究を推進することが妥当である。</p>			



新道路技術会議 委員名簿

- 委員長：中村 英夫 武蔵工業大学学長 東京大学名誉教授
- 委員：赤羽 弘和 千葉工業大学 教授
- 委員（ソフト分科会長）
- ：家田 仁 東京大学大学院 教授
- 委員：太田 和博 専修大学 教授
- 委員：小澤 一雅 東京大学大学院 教授
- 委員：川島 一彦 東京工業大学大学院 教授
- 委員：川嶋 弘尚 慶應義塾大学 教授
- 委員：佐々木 葉 早稲田大学 教授
- 委員：柴崎 亮介 東京大学 空間情報科学研究センター長
- 委員：竹内 健蔵 東京女子大学 教授
- 委員：中越 信和 広島大学大学院 教授
- 委員（委員長代理・ハード分科会長）
- ：三木 千壽 東京工業大学大学院 教授
- 委員：吉川 正嗣 (社)建設コンサルタンツ協会
- インフラストラクチャー研究所 主任研究員
- 委員：吉田 明 (社)日本土木工業協会 広報委員会副委員長

(敬称略、五十音順)